



東久留米市立久留米中学校

令和6年12月3日

久留米中だより

〒203-0052
東久留米市幸町5-9-11
TEL 042 (471) 0030
FAX 042 (472) 7994

教育目標 「知性を高める 心を豊かにする 体を鍛える」



「こども基本法について考える」

校長 木下 信久

こども基本法(令和5年4月施行)は、すべてのこどもや若者が将来にわたって幸せな生活ができる社会を実現するためにつくられました。子どもの権利と福祉を保護・促進するために制定された法律です。この法律の主な目的は、すべての子どもが健全に成長し、幸福な生活を送るための環境を整備することです。

以下は、こども基本法の主要なポイントです。

○子どもの権利の尊厳

- ・子どもの意見を尊重し、適切に反映すること。
- ・子どもの最善の利益を最優先すること。

○子どもの福祉の向上

- ・健康、安全、教育、福祉に関する施策を総合的に推進すること。
- ・安心して暮らせる社会環境を整備すること。

○子どもの成長支援

- ・子どもの健全な成長と発達を支援するための家庭、学校、地域社会の連携を促進すること。
- ・子どもが自己の能力を最大限に発揮できるよう、教育や育成の機会を平等に提供すること。

○子どもに対する暴力の防止

- ・児童虐待、いじめ、暴力から子どもを保護するための対策を強化すること。

○子ども政策の総合的な推進

- ・国や地方公共団体が連携して子ども政策を一体的に推進するための基本方針を策定すること。

○子どもの意見表明権の保障

- ・子どもが自身の意見を表明し、社会の中でその意見が尊重される権利を保障すること。



二次元コードから日本財団のこども基本法プロジェクトを確認することができます

令和5年4月に施行された「こども基本法」の施行を受け、日本財団は全国の10～18歳の男女を対象に「こども1万人意識調査」を実施し、調査結果を報告書として令和5年10月に公開しました。調査結果では、子どもの権利条約及びこども基本法の認知度について、いずれも約6割が「聞いたことがない」と回答しています。さらには、こどもの権利を守るためにあるとよい仕組みとしては「こどもに対して、こどもの権利についてもっと学校で教える」が29.5%で最も高かった一方、「おとなたちにこどもの権利についてもっと教える」も25.8%というスコアであり、自由記述で「子供の権利を守ろうとする大人がいて、制度を作ろうとしていることは分かったけど、そうじゃない大人の方が多くいると思う(14歳)」といった声もあがっており、当事者であるこどものみならず、大人も含めた国民全体への周知啓発の必要性を伺える結果となっています。

子どもたちは、未来を担う存在であるとともに、今を生きる存在であり、保護者の皆さまや地域社会、学校での支えを受けながら自立した個人として自己を確立していきます。子どもたちを取り巻く大人が、こども基本法がつくられた背景や目的を理解し、子どもたちの健全な成長と発達を支援するために家庭、地域社会、学校との連携を促進していきたいものです。

子どもの意見表明の機会を保障するとともに子どもの意見を尊重し、適切に反映できるように努め、これからの時代を切り拓く力の伸長を目指してまいります。

久留米中生の活躍

陸上部

第 77 回東京都中学校支部対抗陸上競技選手権大会

1・2年女子 走高跳 第2位 記録 1m52

2年

第 55 回東京都中学校 11 ブロック陸上競技選手権大会

1・2年女子 走高跳 第1位 記録 1m50

2年

1・2年女子 砲丸投 第2位 記録 6m80

2年

1・2年女子 走幅跳 第3位 記録 3m97

1年

共通男子 3000m 第4位 記録 11.33.2

3年

1年男子 100m 第5位 記録 12.8

1年

共通男子 400m 第6位 記録 61.3

2年

2年女子 4×100mR 第6位 記録 59.2

2年

2年

2年

2年

2年

2年

久留米中学校地区 青少年健全育成協議会

健全育成標語

優秀賞「黒目川 幸せ運ぶ 青い鳥」

3年

優良賞「湧水の 自然が流れる 東久留米」

2年

優良賞「湧き水と 緑の自然 鳥の声」

1年

努力賞「超最高 駅から見える 日本の富士」

3年

努力賞「川がきれい 湧き水多い 黒目川」

3年

努力賞「カワセミに きれいな水に

かっぱのくう 自然豊かで美しい」

3年

演劇部

第 71 回北多摩中学校演劇発表会

優秀賞 演目「ラブソングを殺さないで」

にこにこフェスタ in 本村小



11月23日(土)、本校生徒会本部役員が久留米中学校地区青少年健全育成協議会主催「にこにこフェスタ in 本村小」に出店しました。今年は5年ぶりにそれぞれの小中学校でブースを出すこととなり、10月の生徒会本部役員発足から急ピッチで準備を進めました。

久留米中学校では「運だめし」と題し、トランプやサイコロ、ルーレットを使って、参加者の運の強さを競いました。

やる事が決まってから、ルールや体験の時間、1度に遊べる人数の設定がとても難しく、実際に本部役員でゲームを試してみるなど、何度も試行錯誤を重ね、小学生でも分かるようにルールを単純明快にし、大勢が参加できるように1回の体験時間を短く設定しました。また、本部役員の務めるディーラーや支配人も、飽きが来ず、気分転換できるようにとシフトのローテーションを組むなど、工夫もすべて本部役員のアイデアにより万全の状態当日を迎えました。

当日は、3つのゲーム共に行列ができるほどの大盛況で、久留米中のブースには延べ300人を超える参加となり、終わったあと、本部役員たちは「ふうー。疲れたー」とは言っていたものの、達成感いっぱいの笑顔で当日を終えることができました。その笑顔は、生徒会本部役員発足した当初に比べ、自身に満ち溢れた表情がでていました。

生徒会担当